

はるかな健康平和への祈り

ひとりひとり迷ひの近代から脱出する提案

<http://www.jomaca.join-us.jp/inori>

令和六年六月吉日

人民に仕^{つか}へる 山田 学^{まなぶ} ©

arigatou@image.ocn.ne.jp

※やまとことばの発声を、重んじたく、
旧かなづかひを、させていただきます。

無の境地

わけのわからないやうな、今。脱出する道は、ありますか。

今は、病的な社会、ではないでせうか。なぜか、戦争への志向も、多い。せつかくの、マスメディアや、また、インターネットですが、架空の認識も、あふれてゐる。大小の生活妨害も、多いのではないでせうか。

こんな状況から、脱出する道は、あるのでせうか。

あります。

と申しあげます。

困難な道ではありませんが、ただし、今の常識を超えた、想ひの大転換こそは、必須なのです。

*

からだところの健康、ところと社会の平和、合せて、健康平和。健康平和の本質への、新たな旅立ちは、無の境地に、あります。それはしかし、この数千年間の、さまざまな規範に、はからはない、さまざまな概念に、とらはれない、ことから、はじまる、想ひの大転換なのです。地球の現状にて、想ひの大転換なくして、健康平和の本質への、新たな旅立ちなし。

今の国際組織とかでなく、人民個人の、四六時中、瞬間瞬間にて、特別の資格も要らず、無の境地を、はじめればよい。

無の境地。

人間の毎日の生活は、自身の体内を含む、現実の世界について、ただ、学ばせていただく過程です。ほかに、迷ひの無い、無の境地です。学びの蓄積こそ、へ人間としての悦びです。

四六時中、瞬間瞬間にて、自身の体内の生理を認識し、生理にしたがひつつける。生理にしたがふ、姿勢動作は、どうあればよいか。生理にしたがふ、呼吸は、どうあればよいか。生理にしたがふ、食事と排泄は、どうあればよいか。

生理にしたがふ、人間関係、とくに異性関係は、どうあればよいか。生理にしたがふ、精神は、どうあればよいか。生理にしたがふ、生活環境は、どうあればよいか。

おのおのが、正直に、追求しつづけます。人の意見は、参考にするのみです。この数千年間、諸国家の攻防において、この無の境地が、乱されてをりました。諸国家の攻防の時代の、さまざまな規範に、まう、はからはなくても、よいのです。さまざまな概念に、まう、とらはれなくても、よいのです。自身の体内を含む、現実の世界について、ただ、学ばせていただく。おのおのが、正直に、みづから、必要な概念を創り、必要な規範を創るのです。

ただ感謝

諸国家の攻防の時代にて、おのおのの悩み苦しみから、逃げさせることも、多かつた。が、悩み苦しみから逃げるからこそ、学びの機会を無駄にする、迷ひなのです。四六時中、瞬間瞬間にて、悩み苦しみにも、悟り楽しみにも、あへてただ、感謝します。ほかに、対応の乱れの無い、無の境地です。

悩み苦しみが生ずることは、そこから、悟り楽しみへの必然の道も、ある。その必然の道について、自身の学びが不足してゐる。そこにこそ、学びの機会がある。他生物にはない、へ人間としての悦びの機会が、ある、といふことなのです。

人間なら、悩み苦しみに、あへてただ感謝し、そこから、悟り楽しみへの必然の道を、求めつづけます。求道生活ぐだうです。

あらゆる個人は、世界の部分です。たとへば、自身はさまざまに、至らぬことありと、感じて、そのありのままにて、自身の体内を含む、現実の世界について、ただ、学ばせていただく。すなはち、無の境地を、はじめればよいのです。特別の資格は、要らないのです。

悩み苦しみに、あへてただ感謝し、そこから、悟り楽しみへの必然の道を、求めつづける。この過程は、海の波のやう、くりかへします。無理せず、無駄せず、つづけます。順順に、求道してゆきます。諸国家の攻防の時代において、人の意見にとらはれ、人との競争にもはからひ、無理したり、無駄したりしました。自身の体内の生理に、したがはぬといふ、迷ひにて、求道生活が、乱されてをりました。人民個人の求道生活に、帰ります。

世界と体内を統一します。必然と意志を統一します。必然の世界のうちにて、自身の生理にしたがふ意志。これが、へ人間としての悦びある生活です。悩み苦しみから逃げさせる幻想から脱出します。

人間の歴史

この数万年間、とくにこの数千年間、生産の社会、すなはち、労働による生産の社会が、発達してきた。そして、16世紀から、西欧民族が主導した、近代化は、生産のうち、とくに、〈交通〉（＝建築・運輸・金融・通信・提案）を、発達させてきた。地球表面の統一に、接近しつつあります。

それとともに、この数万年間、とくにこの数千年間、認識表現の社会、すなはち、認識による表現の社会は、地球各地の氣候風土にも対応し、むしろさまざまなに、分化しました。人間の、諸民族性への分化です。

それとともに、この数千年間、規範の社会、すなはち、規範による調整の社会としては、諸国家が攻防してゐます。国家は、部族・民族の闘争を調整し、のちには、資産階級の闘争も調整してゐる、組織です。

生産の社会において、地球表面の統一への仕上げとして、認識表現の社会としては、西欧民族を相対化し、諸民族の自立と協同を、追求します。とともに、生産の社会において、資産の循環（有意義な寄付）も、追求します。すると、民族・部族の闘争が減り、資産階級の闘争も減り、諸国家といふ組織を、しだいに、必要としなくなります。諸国家の攻防の時代の、終りです。規範の社会は、人民個人の道徳、すなはち、求道生活に、帰ります。諸民族の自立と協同や、資産の循環。これらの前に、自身の体内の生理にしたがふ、諸個人の自立と協同こそを、追求しあひます。軍事産業などの利益のためだけの、非人道な戦争もある、地球の現状にて、まづは、想ひの大転換が、必須です。

現実冥想

自身の体内の生理を認識し、生理にしたがふ。それは、四六時中、瞬間瞬間にて、自身の体内に注意する。快か、不快か。快を求む。体内の無、不快が無いを、求む。といふことです。これが、健康平和への、認識姿勢です。この認識姿勢を、健康平和な、と呼ぶことにします。

人間の毎日の生活は、自身の体内を含む、現実の世界について、ただ、学ばせていただく過程です。すなはち、健康平和な、現実の認識を、蓄積する過程です。

とともに、諸国家の攻防の時代において、それなりに、やむをえなかつた、ほかの認識は、しだいに、放念してゆきます。

健康平和な、現実の認識の、蓄積。これを、現実冥想、と呼ぶことにします。人民のおおのが、生活と生産の、個性状況にて、現実冥想しあひます。

世界の現実を反映してゐる認識、それが、現実の認識です。世界の現実を反映してゐない認識、それが、架空の認識です。ただし、人間の健康平和にとり、

それが架空の認識であると、自覚した、架空の認識は、有益であることも、ありません。それは、睡眠中の夢や、覚醒中の芸術内容などにて、あります。

現実愛

社会を創り直す。人民のおのおのが、生活と生産の、個性状況にて、現実冥想しあふ。とともに、健康平和な、生活協力を、しあふ。健康平和な、生活協力。これを、現実愛、と呼ぶことにします。人民のおのおのが、生活と生産の、個性状況にて、現実冥想にて、現実愛しあふ。

とともに、諸国家の攻防の時代においては、それなりに、やむをえなかつた、大小の生活妨害を、しだいに、放棄してゆきます。

人民のおのおのが、生活と生産の、個性状況にて、現実冥想にて、現実愛しあふ。その需要として、教養や体験や物品などを、流通させます。健康平和な社会へ、救はれの流通です。流通は、提案・通信・金融・運輸・建築です。ただし、一部の人びとの資産増殖欲による、近代化ではなく、まうはや、へ人民すべての健康平和欲による、超近代です。

近代の学校や教科書なども、相対化し、まづ、人民のおのおのが、生活と生産の、非公開の個性状況において、現実冥想にて、現実愛しあふのです。個人求道を基礎とせぬ、社会組織は、人民生理から離れた、不毛なくりかへしに、すぎないでせう。

超近代

人間は、対象（世界の部分ないし全体）を認識し、認識の一部を表現、とくに言語表現してゐます。表現の一部を、ICT（情報通信技術）にて、記録してゐます。

せつかくのインターネットですから、人をいぢめあつたりせず、現実冥想（健康平和な、現実の認識の、蓄積）を、表現しあひ、記録しあふ本流を、創ります。学びの蓄積こそ、へ人間としての悦びです。その記録の集成です。

地球の各域の、個性状況にて、インターネット通信の各部門の、個性状況にて、健康平和な社会へ、有効な供給を、工夫しあひます。

今からの超近代は、人民生理本位の現実認識集成、です。

近代のなにを、超えるか。近代の、議会制民主主義や数学・物理学・生理学などの、中途半端。これをこそ、超えます。

近年の、AI（人工知能）。表現ないし言語の、意味内容には触れず、大量の半導体により、表現ないし言語についての、統計的傾向を把握し、判定制御や生成をする、AI。（これは、西欧民族風に、神を証明したい方法かも。）超近

代は、AIをも超える、人民のおのの求道生活と参画社会です。言語の渾沌とした意味を、順順に、秩序立て、自然な判断ないし決断に導く、人間のある技能も、活用します。人民の健康平和な生活が、AI・ロボットといふ生産物により、妨害されることが、あつてはなりません。

縄文風平和

超近代へ、さまざまなことについて、どういふものの見かた考へかたを、すればよいのか。

健康平和な社会への、有効な供給として、現実冥想（健康平和な、現実の認識の、蓄積）としての、学問も集成します。道徳学↓経営学↓公会学↓認識学↓生理学↓物理学↓世界学。（数学は、世界学の一部にすぎぬ。）現象論↓構造論↓本質論。

とともに、諸国家の攻防の時代において、それなりに、やむをえなかつた、ほかの学問は、しだいに、放棄してゆきます。

公会学として、諸民族の自立と協同へ、われら日本民族が起点となる、理由があります。主に、日本列島の、特異な自然環境が、原因ですが、日本民族の原点に、国家発生以前、一万年以上の、平和な縄文時代があります。部族国家発生後、この数千年間の地球、すなはち、諸民族闘争などの、特異な時代を、相対化しうる、平和性の原点が、日本民族には、あるのです。日本民族の伝統を、反省し、諸民族の自立と協同へ、仲介のあり方も、創造します。今からの超近代にて、西欧民族を相対化し、日本民族が仲介し、諸民族の自立と協同を、追求する。この追求を、縄文風平和、と呼ぶことにします。われらがご皇統も、遅くとも弥生時代より、実は水面下にて、縄文風平和を準備する方向の、貴重なお活動を、なしてこられました。

そもそも、わからないものごとが、ある。さう、甘受させていただく。これこそが、人間として、精神安定の根本です。最高の悟りなのです。無理なく、無駄なく、未知を、既知に、していきあひます。

対立学

世界学の一部である、論理学には、無対立学と、また、対立学とが、あります。

無対立学は、対立するものが無い範囲にて、どういふ論理がありうるかの、追究です。国家を統制するための、論理学でもありました。

対立学は、対立するものにある論理の、解明です。世界は、さまざまに対立するものの関係にて、あります。それを正視します。

まづ、変化の論理です。変化は、瞬間（微細精度にて一定時間）にて、なかであるとともにそれでない、です。対立の論理です。

次に、多面確認の論理です。世界には、さまざまな面が、あります。それを順順に、確認すると、ある面であるとともに別の面である、といふ変化です。

あるものと対立するものが、調和することもあり、闘争することもあります。

あるものの変化を、対立するものが媒介する、といふことがあります。あるものが直接に、対立するものである、といふこともあります。浸透。転化。止揚。否定の否定。これら対立の論理については、別の機会にて、詳述します。

あるものと対立するものについて、対立の論理を解明するには、それらの区別と連関を、確認します。

近代学問の盲点として、物理は直接に、生理であり、生理は直接に、認識の理です。物理も、生理も、認識の理も、客体的であるとともに、そのうちにて、物理↓生理↓認識の理と、主体度が増してゐます。客体的であるとともに、主体度が増す。かういふ、対立学としての論理学が、近代学問の主流には、ありません。かずと量と図形を対象とする、数学にとらはれてゐるからでも、ありません。

必然の世界のうちにて、自身の生理にしたがふ意志。このへ人間としての悦びが、近代学問のままであると、軽視されます。

生物の生理は、主体（体内の遺伝）の、代謝（同化と異化）による、生存環境への適応です。

日本民族はとくに、他生物に親しみを感じ、また、親しみあるロボットまで、創らうとする面が、あるやうです。

運営や指導

人民すべてによる、現実冥想（健康平和な、現実の認識の、蓄積）と、現実愛（健康平和な、生活協力）を、積み上げる。その需要として、社会の運営や指導は、どういふ供給が、ありうるか。

近代化の一部にて生じた、社会主義や共産主義の無理や、その裏にあるかもしれぬ、識者専制志向も超える、人民生理本位の、運営や指導を追求します。

想ひの大転換として、諸国家の攻防の時代を、相対化し、人民参画にて、健康平和な地球表面統一を追求します。

諸個人が自立し協同した上にて、小集団の愉しさも積み重ねます。家庭と同好会と職場。民衆参画と道徳と生産と学問と政治解消。個人の生理と社会の規範を、区別し連関させます。諸民族の自立と協同へ、縄文風平和を仲介する、日本民族は、戦後において、道徳が風化してゐる。その風化を埋める、現実冥

想と現実愛といふ、道徳運動でもあります。そしてそれを起点とする、生産調和運動でもあります。健康平和提案事業です。

なほ、地球人は、宇宙において、まだ後進生物であるに、すぎません。その現実を正視する準備としても、現実冥想と現実愛の積み上げが、必須なのです。

理想

諸国家の攻防の時代の終末を祈り、単純な目的の確認です。

生産の目的は、人民おたがひの健康平和な生活を生産しあふことです。

ここに記した、はるかな健康平和への祈りこそ、さういふ、単純かつもっとも大きな理想への〈唯一の道〉ではないでせうか。

想ひの大転換による、実は意外に近くにある、悠久壮大な物語のはじまりです。人民に仕える、山田 学が、今までに現実冥想した内容にて、現実愛させていただきます。日本社会の主^に在野にて、すでに豊かに育まれてきてゐる、〈まうひとつの本格総合教養〉と、その脱皮・活用です。米国、あるいは、中国に頼る、日本の学校秀才の諸氏には、大きな盲点なのかもしれません。

混乱しつつある、迷ひの近代から、ひとりひとりが、想ひの大転換により脱出し、超近代を創りはじめます。個人の、無の境地への、想ひの大転換です。近代に、超近代を浸透させ、いづれは、すべてを超近代に再編します。より詳しいことは、別の機会にて、語ります。すべての人の生ひ立ちや学校歴や職場歴や家庭歴や老化病歴などなりに、その活動の居場所を、見つけあひませう。超近代といふ必然へ、誇り高き開拓です。その情熱です。みづからくづれゆく近代を、非難し、お茶を濁してゐる時機は、終わりました。悲観から、楽観へ。なほ、日本民族としては、親鸞・道元・日蓮といふ教祖らについても、学び直したいです。